

みずほディーラーズアイ (2025年5月号)

みずほ銀行

目次

米ドル相場/ユーロ相場	2	韓国ウォン相場	8
英ポンド相場	5	台湾ドル相場	9
豪ドル相場	6	香港ドル相場	10
カナダドル相場	7	中国人民幣元相場	11
		シンガポールドル相場	12
		タイバーツ相場	13
		マレーシアリング相場	14
		インドネシアルピア相場	15
		フィリピンペソ相場	16
		インドルピー相場	17

* 見通しは各ディーラーのビューに基づきます。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

ドル円相場

予想レンジ: USD/JPY 139.00 ~ 150.50

国際為替部 グローバルFIチーム 山崎 浩幸

■ 今月の見通し

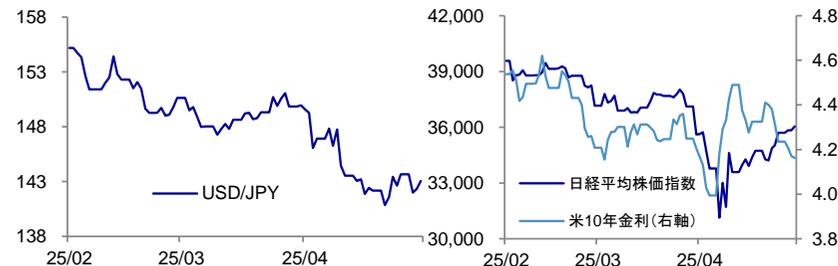
【一旦、円高小休止を予想しつつ、ヘッドラインによる大きな変動に警戒したい】

米大統領をはじめとした政権幹部の発言に引き続き振られる展開が継続するものと予想。日銀による政策金利引き上げ期待も剥落する中でも、ドル/円は引き続き140円台前半での値動きが継続。投機筋による円買い持ちポジションが大きな数字を維持しつつドル/円が現在程度の水準で推移していることに、不気味さを感じつつ、一旦は米政権の関税に対するややトーンダウンした発言等を踏まえ、リスク回避によるドル売り一服と予想。しかし、絶えずヘッドラインリスクがあり、ポジションも傾いていることを考えると、材料探しともられかねず、特にドル/円においては東京休日となるゴールデンウィークによる薄商いでの仕掛け的な動きにも注意したい。

BOJ、本邦長期休暇明けに予定されているFOMCがあり、その動向の確認待ちといったことも想定され、BOJは利上げトーンダウン、FOMCでは、その利下げペースの確認とマーケットコンセンサスが形成されつつある中で、結果とマーケットコンセンサスの差異には注意したい。また、米雇用統計等、米国経済に関するハードデータの発表についても、米相互関税による影響が出ているのかどうかに耳目が集まる中においてはいつもよりも重要なイベントにつながる可能性も。各イベント結果によるマーケットの動きにも気を配りたいところ。

当初の米政権の勢いに陰りが見えていることから、ややリスクが後退している雰囲気も感じられるところから、下は固いものと想定し、一旦は上方向を予想したい。ヘッドライン次第では大きな値動きにつながる可能性があるような環境だと思われ警戒したい。

■ 為替の動き



■ 金利・株価指数の動き

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	前回
5/1	ISM製造業景気指数	4月	48.0	49.0
5/2	非農業部門雇用者数	4月	130K	228K
5/2	失業率	4月	4.2%	4.2%
5/13	CPI(前年比)	4月	2.4%	2.4%
5/15	小売売上高速報(前月比)	4月	-	1.5%

ユーロ相場

予想レンジ: EUR/USD 1.1100 ~ 1.1600
 EUR/JPY 158.00 ~ 166.00

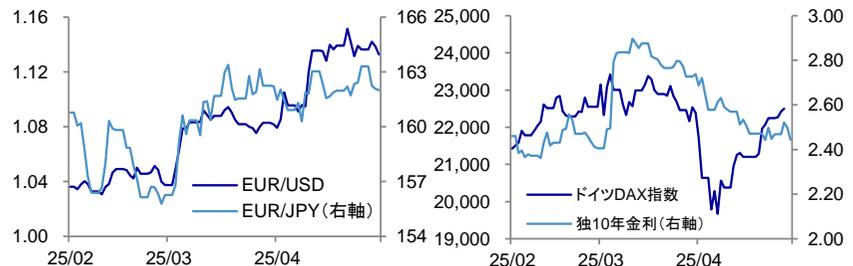
国際為替部 為替営業第二チーム 鈴木 智大

■ 今月の見通し

今月のユーロ相場は引き続き堅調な推移になることを予想する。ECB理事会は4月会合で6会合連続となる▲25bpの利下げを決定。相互関税の発動以降の混乱や米欧の交渉が現在進行中であることを背景に、注目された利下げ停止を示唆するような内容は見られず。ラガルドECB総裁から、「6月の会合時点では、関税についての影響が完全には分からない」との発言があったように、期近の動きには慎重な姿勢が示された一方で、理事会で▲50bp利下げへの言及があったことが明かされるなど、利下げにオープンなスタンスを当面維持することが想定される。ただ順調に利下げを消化してきたECBの年内利下げ織り込みは2回程度であり、米国のそれと比較するとかなり差がある印象で、不透明感の強い相場環境において、米欧金利差の縮小というわかりやすい材料が、ユーロ相場のサポートとなる可能性は十分考えられる。

また先月の大幅なユーロ高に寄与したトランプ政権の関税政策については、各国の目安となる関税率が明らかになった上、要所で状況の好転を示唆するようなヘッドラインが出るなど最悪期は脱した感があるものの、影響の大きさが特に懸念される中国との間で明確な交渉の進展が見られていない。90日間の追加相互関税の猶予期間の延長が否定されるなど、全般的に依然不透明感は強く、パウエルFRB議長の解任騒動は一旦落ち着いたとはいえ、トランプ米大統領はじめ、米金利の低下を望む政権要人の発言も背景に、ドルの買い戻しが進む展開は想定できない。既に関税の適用が開始されているドイツの自動車産業を中心にユーロ圏の経済停滞への懸念は強く、あくまでドル売りの受け皿という立場は変わらないため、一辺倒に上昇する展開は想定できないものの、引き続きユーロが選好されやすい地合いは続くものと考えている。

■ 為替の動き



■ 金利・株価指数の動き

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	前回
5/13	独ZEW景気期待指数	5月	-	-14.0
5/13	独ZEW調査現状指数	5月	-	-81.2
5/22	独製造業PMI	5月	-	-
5/22	ユーロ圏製造業PMI	5月	-	-
5/22	ユーロ圏サービス業PMI	5月	-	-
5/22	独IFO企業景況感指数	5月	-	86.9

お客さま各位

ここではレポートの一部をご紹介します。
しています。

レポート全ページをご希望の方は、
お取引いただいているみずほ銀行の
お取扱店、またはお取引担当部まで
お問い合わせください。

以上